



国際生体肝移植登録 | LDLTregistry.org

背景：生体肝移植 (LDLT) は 1990 年代前半に、疾患を持つドナーからの移植利用可能な臓器の不足の増加に対処するために、導入されました。LDLT は、アジア地域では依然として肝移植の主な提供方法として用いられていますが、ドナーの術後合併症、さらには死亡のケースさえ報告されており、それが欧米諸国における普及を妨げてきました。移植の術後データは、先進国では参照可能ですが、発展途上国では依然不明なままです。世界的なプロセスの標準化を始め、1つの事前登録によって意味のある比較を行うために、世界のすべての地域からデータを収集する必要があります。

施設の登録資格：LDLT に関係する世界中の施設はすべて、この登録への資格を有しています。提出また基準選択のための最低ケース数はありません。

チームメンバー：各施設は、3人から成るチームを構成します。メンバーには、外科医、麻酔科医、血液専門医、救命救急医およびその他 LDLT に関係するメンバーが含まれるでしょう。監査員（データ観察者）が、登録手順への順守の確認を始め、参加施設のデータ収集の品質を監査するために選任されます。

選択基準：ケースは、事前に登録が必要です。ドナーおよびレシピエントの両方の登録、大人および小児科か、ディアルグラフトを始め2つのステージの LDLT（例えば APOLT, RAPID, ASPIRE, RAVAS）についての登録が含まれます。

除外基準：ドミノ移植は除外されます。

術後結果：ドナーおよびレシピエント両方について、退院および術後最大 90 日後まで、術後合併症および死亡が観察されます。付加的な術後データを、その後 12 ヶ月にわたって取得します。

データ所有権：LDLTregistry.org がデータ管理人としての責任を担います。すべての関係者は、LDLTregistry.org の委員会の許可を必要とすることなく、各自の送信データにアクセスすることが可能です。主任研究者および科学的管理委員会が共同で、データ共有依頼について決定し、提示されたプロジェクトの品質および信頼性に基づいて関係するすべての依頼を考慮します。

データの機密性：外科医および施設名に関するデータの報告は含まれず、すべてのデータは完全に匿名化されます。

オーサーシップ：登録の提出および確認のなされたケースを有するすべての LDLTregistry.org メンバーが、主要論文のグループオーサーとして PubMed に記載されます。スピンオフ研究には、正式名称によるオーサーシップが含まれますが、参加者すべてのグループオーサーシップと共に、“LDLTregistry.org Collaborative”の表記が含まれます。

提携関係：The International Living Donor Liver Transplantation (iLDLT) Group、および The International Liver Transplantation Society (ILTS) と提携しています。